

鹿屋寺子屋かわら版

令和8年3月4日発行 第54号

鹿屋寺子屋シンポジウム 開催！！

2月16日（月）に令和7年度鹿屋寺子屋シンポジウムが、リナシティかのやで開催されました。約140名の方のご参加をいただきました。誠にありがとうございました。

寺子屋事業説明の後、寿北ランラン塾とひがっばい塾の活動発表がありました。寿北ランラン塾指導員の松元武子さんの発表は、寺子屋で学習習慣や基本的な学びのルールを身に付けさせて、子どもたちが自主的に学習できるようになったことが紹介されました。また、様々な遊びや子どもたちの特技紹介などを通して異年齢の子どもたちが人間関係を学んでいることの発表などがありました。



ひがっばい塾塾長の川崎勝さんの発表は、塾の特色の一つである読書の推進について説明し、子どもたちが指導員さんに音読を聞いてもらったり、読んだ本のリストを作ったりして本に親しませる様子が紹介されました。また、地域との連携にも力を入れており、塾の体験活動として子どもたちが町内会主催の行事に参加し、地域の活性化につながっている様子も紹介されました。

ディスカッションでは、コーディネーターとして生涯学習課の宇井知隆課長、パネラーとして活動発表のお二人、寿北小学校の伊藤太校長、講師の猿渡智衛氏の4人が登壇しました。テーマを「寺子屋事業のこれまでとこれから」として、ディスカッションをしていただきました。「これまで」の成果として、子どもたちの成長、指導者の生きがい、異年齢集団の場、放課後の居場所作りなどのキーワードが出てきました。「これから」の意見として、寺子屋事業のさらなる周知、体験活動の重視、学校運営協議会での周知の必要性について意見が出されました。また、猿渡氏からは、学校教育にとらわれないダイナミックな体験活動の実施等の提言がありました。



講演は、「今、求められる鹿屋寺子屋を通じた人づくり・地域づくり」と題して、今までの鹿屋寺子屋事業の取組を踏まえて、今後の事業の在り方について多岐にわたり示唆をいただきました。大まかに次の4つのことを話されました。①寺子屋を地域のネットワークの中心にして、地域の活性化を図る。②寺子屋を子どもたちの居場所作りとして機能させる。③地域の人と何かをやることが大事である。④地域の課題を解決するような取組を寺子屋で実施する。

猿渡先生の話は、ダイナミックで夢のある話が多く、元気をいただきました。会場の皆様も今後の寺子屋事業や地域の活性化について、何かヒントを得たものと思います。



りりし田崎塾 ~1月の様子~

【児童の感想】

- 書初めをきれいに書くことができました。
- 先生にまるをもらってうれしかったです。

【指導員の感想】

体験学習の「書初め」。どの子どもも集中して、それぞれの課題に取り組みました。



美里吾平塾 ~2月の様子~

【児童の感想】

今日は、大根がもらえてよかったです。うでよりも太い大根でした。

【指導員の感想】

「寺子屋農園」で、大根の収穫。欠席者の分を残して、一人数本ずつ収穫しました。植える際に決められた場所に同じ種類のを植えたはずでしたが、育てみると違う種類のものも混ざっていました。子どもたちは、「〇〇君のが大きい。」などと言いながら、嬉しそうでした。

